

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科
村上 翔太郎

作成日 2024年1月30日

1. 教育の責務

<p>病院看護師、市町村外郭団体の保健師、健診機関の保健師を経て、2021年（令和2年）度より弘前学院大学看護学部採用。本年（2024年、令和6年）で4年目となる。</p> <p>2021年度公衆衛生看護学領域。2022年度より基礎看護学領域にて助手として勤務。主に実習・演習の指導を担当している。</p> <p>その他、学外活動として弘前学院生活協同組合（大学生協）の理事を務めており、理事会や保護者説明会などの場面で教職員の経験を活かした、学生生活の充実に努めている。</p>				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
基礎看護学実習Ⅰ	1年	実習	後期	看護の見学とコミュニケーション
基礎看護学実習Ⅱ	2年	実習	前期	看護過程の展開と看護の実践
プライマリ・ヘルスケア実習Ⅰ	1年	実習	前期	看護の対象の理解と自己理解
看護統合実習	4年	実習	前期	看護実践能力と看護専門職のあり方の探求
基礎看護技術論	1年	演習	前期	環境整備、活動、食事・栄養
基礎看護技術演習Ⅰ	1年	演習	前期	感染予防、バイタルサイン測定
基礎看護技術演習Ⅱ	1年	演習	後期	清潔、無菌操作、排泄
基礎看護技術演習Ⅲ	2年	演習	前期	注射、採血、酸素吸入、吸引
ヘルスアセスメント	1年	講義	後期	フィジカルエグザミネーション

2. 教育の理念

看護職が社会から求められている役割は広く複雑になり、看護職が働く場は多様になってきている。そうした社会のニーズに応えながら、学生が看護をライフワークとすることができるよう、看護学の入り口である基礎看護学領域の助手として以下の姿勢で教育活動を行っている。

1. 主体的な学習姿勢を育む

専門職者として良質な看護の提供と、自らの看護観に基づいた職業選択や看護ができるように入学期の段階から自ら主体的に考え、学び、行動する力を養うことを目指す。

2. 看護の可能性を考え、看護者として基本となる態度を養う

看護学はあらゆる人々への健康の維持・増進に向けた援助を探究する学問であり、基礎看護学では、すべての看護の基盤となる知識、技術、態度の修得に向けた学習を行う。

そのため、ただ知識・技術の修得だけに留まることなく、対象者を尊重できる人間性の涵養と、対象者に対しどのような看護ができるかを考えていける教育を行っている。

3. 職業人としての自己管理能力をもった人材づくり

地域の病院・施設に看護職を送り出す立場として、厳しい看護の現場の中でも自身の役割を果たすことが出来るように、また学生自身が充実したキャリアの歩むために健康管理能力をはじめとした、自己管理能力を持った人材を育成していく。

3. 教育の方法

1. 学習環境の整備

演習や実習では学生が過度に緊張することなく、積極的に学習を進められるよう、学生の思いを最大限尊重し、和やかな雰囲気の中で学習に臨めるように雰囲気作りを行っている。技術試験前は教員から実習室に足を運び、練習や疑問の解消のサポートをしている。

その他、実習室の物品の整理等、学生が自習しやすいような環境整備を行っている。

2. 演習・実習での取り組み

提出された課題には必ずコメントを返し、学生の努力を教員が見守っているということを伝え、自己効力感や学習意欲の向上につながるフィードバックを行っている。

臨地実習では、まず社会人の基本であるマナーや自身の振る舞いが対象者や周りにどのような影響するかを意識できるように指導し、看護職としての基本である人間性の成長に繋げている。

また、実習はこれまでの座学や演習で学んだことを統合する場であるため、授業や演習での経験と実習での出来事が繋がって学びとなるように、リフレクションを促すかわりに努めている。

3. その他

学生が看護職のロールモデルを形成できるよう、自身の体験や知人や記事から得た情報を積極的に紹介している。またどうしたら学生の希望する働き方を叶えられるか、情報の収集と提供に努めている。

必要時、普段の授業態度や健康面についても伝え、単に技術の修得のみに留まらず、大学生として考えて欲しいことをメッセージとして伝えている。

4. 教育の成果

- 教員側から積極的にコミュニケーションを図ることで、1年生ではコミュニケーションスキルが低く消極的な傾向みられた数名の学生が、2年生になると自分から質問や相談ができるようになり、積極的に実習室を活用するといった学習姿勢の変化が見られた。
- 演習時の事前・事後学習へのフィードバックに関して、1年生前期では学習内容の不足や振り返りの煩雑さが目立つ学生だったが具体的なフィードバックを続けることで、後期の学習内容は十分に課題内容を調べたものとなり、振り返りも具体的に反省と改善点が記載されるようになった。

5. 教育の改善

- 実習室を有効活用できるように、使いやすい物品配置や相談システムを検討する等、自学自習に取り組みやすいサポート体制を整えていく。
- これまでの現場経験に基づいた指導に偏りがちであり、学問としての学びを十分に提供できていないと感じている。担当領域や看護教育に関する内容の研鑽に努めていく。
- 学生の個別のレディネスと個性をしっかりと把握し、その学生に合わせた学習支援ができるよう、教員としての能力向上に努めていく。

6. 教育の目標

【短期目標】

- 技術試験科目以外の練習にも取り組む学生の増加を目指して、実習室の環境整備や学生への意識付けを行っていく。
- 基礎看護学領域の集大成である基礎看護学実習のレポートにおいて、自身の課題を明確に考察し、具体的な改善策を考えることが出来る指導に取り組む。

【中長期的目標】

- 学生が自身の健康管理の重要性を理解し、健康的に学業に取り組むことが出来ることを目指したい。現在理事を務めている大学生協等とも連携し、健康に関する啓発活動を行っていききたい。
- 健診機関の保健師として産業保健看護分野の一端を担った経験を活かし、そうした分野に関心がある学生の支援や、学生の多様なキャリアに対応できる教育者を目指したい。

【資料】

1. シラバス
2. 学習課題（事前学習・演習の振り返り）
3. 実習レポート（基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ）
4. 実習室使用簿（基礎看護学実習室）